

# レプトスピラ症 Q & A

福島県衛生研究所（感染症情報センター）

## **1 どのように感染しますか。**

ネズミや家畜などの尿で汚染された水や土壌に存在する病原性レプトスピラという菌が口や傷ついた皮膚から体に侵入し、感染します。

したがって、感染原因としては、保菌動物の尿で汚染された環境での労働（農作業や下水道での作業）、動物の尿や血液に直接接触する可能性のある家畜の飼育や、食肉処理場での作業などがあげられます。

なお、大雨や洪水の後は、汚染水の滞留、衛生状態悪化によるネズミ等の増加により、感染の危険性が高くなるため注意が必要です。

## **2 感染してからどのくらいの時間で発症しますか。**

感染してから3～14日の潜伏期を経て症状が出現します。

## **3 どのような症状がありますか。**

第1期（菌血症期）：3～14日の潜伏期を経て、高熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、眼球結膜充血が出現します。眼球結膜充血は最も特徴があり、第2～3病日には著名となり、早期診断の重要な指標となります。

第2期（免疫期）：重症化すると、第4～6病日に黄疸、腎不全、出血傾向などを呈します。出血傾向の部位は皮下や鼻出血から致死率の高い肺出血まで多岐にわたります。適切な治療が行われない場合の致死率は20～30%に及びます。

臨床症状が非特異的であることから、保菌動物の尿に汚染された水との接触、流行地への旅行歴などの情報が診断において重要な手がかりとなります。

## **4 ヒトからヒトへ感染しますか。**

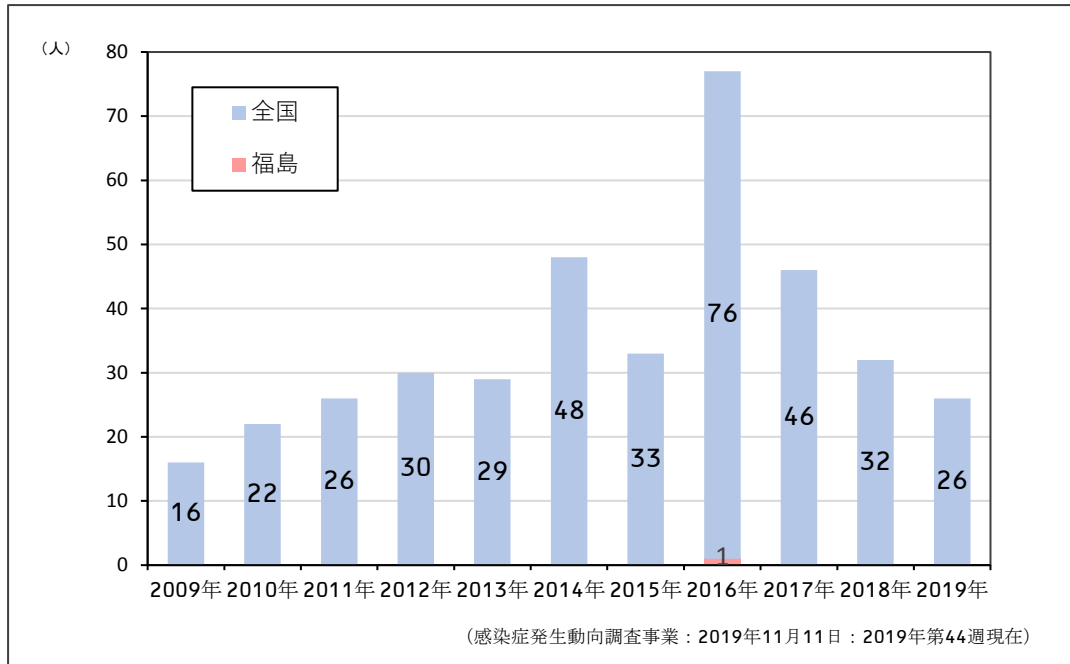
ヒトはレプトスピラを長期間保菌することはありません。通常、ヒトからヒトへの感染はまれです。

## **5 近年の国内の発生状況を教えてください。**

感染症発生動向調査事業（レプトスピラ症：全数把握対象疾患四類感染症）における2009年～2019年第44週時点の全国の発生状況を下記に示します。

近年国内では、報告患者数が減少していますが、現在でも散発的な発生は全国各地で認められています。特に、沖縄県では散発、集発事例が報告されており、全国の約半数を占めています。

福島県では2016年に1例報告（郡山市）がありました。



## 6 これまでに災害に伴う発生例や集団発生はありましたか。

レプトスピラ症は、全世界的に発生のみられる感染症です。

海外では特に東南アジアや中南米などの熱帯地域では、洪水の後に大規模な集団発生が起きています。

国内でも2005年に宮崎県、2011年に三重県で、台風とそれに伴う洪水の後に発生が確認されています。また、2014年には沖縄県の米軍訓練での淡水曝露による集団発生、2016年にも沖縄県で河川でのレジャーによる感染が原因とされる集団発生が報告されています。

## 7 感染しないようにするために、どのようなことに注意すればよいですか。

大雨や洪水の後は、災害廃棄物等の回収困難などによる衛生状態の悪化によりネズミ等が増加することも考えられ、感染機会の増加が懸念されます。残飯等は適切に処分するなど、環境を清潔に保つことが必要です。

野外作業をする際は、肌を露出しない服装で、手袋や長靴を着用しましょう。また、作業後には石鹸、流水での手洗いを徹底しましょう。

また、レクリエーション等で淡水に触れることがある場合には傷の保護に努めましょう。

## 8 ワクチンがありますか。

海外では現在もヒト用ワクチンが製造されていますが、レプトスピラに対する免疫は血清型に特異的であるとされており、ワクチンに含まれていない血清型の感染に対する予防効果は不明です。

## 9 参考文献

---

- ・ 感染症予防必携 第3版 日本公衆衛生協会
- ・ 東京都感染症マニュアル 2018
- ・ 国立感染症研究所 IASR 29 : 5~7, 2008、IASR 37:103-105, 2016
- ・ 厚生労働省検疫所 FORTH